



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2020年11月20日 No.262

**全組合員で「年末手当・追加支給」を求める取り組みに
決起する意思を打ち固めるとともに新たな運動方針を確立する！**



第9回定期大会

11月19日、東京都「Instabase 内海」において「第9回定期大会」を開催しました。コロナ禍であることを十分認識し、会場の換気やマイク等の消毒、飛沫感染対策など万全の感染拡大防止対策のもとで開催しました。

大会では、安全の確立をはじめ 2020 春闘、2020 年度夏季手当および年末手当、組織拡大、労働条件・労働環境改善の取り組みなど、約一年と四ヶ月の総括を行い、さらなる組織拡大の実現と全組合員で取り組むとした運動方針を満場一致で確立しました。



質疑では、全 12 地本 12 名の代議員から発言がありました。2月に開催した第7回中央委員会以降、コロナ禍での「集まらない」運動から中央本部が発している第9次ガイドラインを徹底した「集まる」ことへの悩みや議論を通じての成果や課題。また、今まさに取り組みの最中である「2020 年度年末手当」の回答に対する追加支給を求める闘いや業務諸課題に対する職場からの取り組み、組織拡大にむけた実践の成果と教訓などが力強く語られました。

執行部答弁ののち、提起した協約・協定の締結、2020 年度運動方針、2020 年度予算、規約・諸規則の一部改正など、すべての議案が満場一致で採択しました。

コロナ禍における初めての大会となった「第9回定期大会」は、千葉地本選出の稲阪議

長による円滑な進行のもと、今日まで取り組みをつくりだしてきたすべての組合員の力によって成功を確認しました。

新たな中央執行体制のもと、東日本ユニオンの要求と組織拡大を実現させる取り組みのスタートを切りました。



大会宣言（案）

本日、私たちは「Instabase 内海」において第9回定期大会を開催し、新型コロナウイルスに対する不安と恐怖をJR労働者の英知で乗り越え、with コロナの時代における労働組合運動に邁進する方針を満場一致確認した。

現在も猛威を振るう新型コロナウイルスは、人と人との接触やエリアを超えての移動などに大きな制限を課し、JR労働者同士のつながりも断ち切ろうとした。しかし、私たちは第8回臨時大会の開催を経てコロナ禍における組織の運営基盤を確立し、ウイルスに「感染しない・させない」ことを第一義に据え、小規模・短時間・リモートなどの新たな労働組合運動のあり方を模索し、実践してきた。

その姿勢が秋田における新たな仲間の加入に結び付いた。これはコロナ禍における労働運動が職場で当たり前展開され、何でも話ができる関係づくりができていたからこそ得られた成果である。昨年の第7回定期大会以降、4名の新たな仲間を迎え入れた。私たちは新たな仲間とともに、組織拡大に向けた取り組みをさらに強化していく。

今年度のJR労働者の年間所得は大きく後退しようとしている。「2020 春闘」では定期昇給に加えるベアは所定昇給額の1/10に留まり、職制による賃金格差も拡大する回答も示された。そして夏季手当は前年実績の17%減となる「2.4ヶ月分+5,000円」が、さらに年末手当においては過去に例のない「2.2ヶ月分」という超低額の回答が示されたのだ。

JR東日本の経営状況は、昨年度の第4四半期以降コロナ禍の影響を大きく受け、業績は大幅に悪化している。だからこそ春闘および夏季手当の低額回答に対しては理性的な議論を経て妥結の判断をした。しかし、現段階で回復傾向にある業績と、コロナ禍における安全・安定輸送を通して業績回復の素地を築いてきたJR労働者の努力に対する成果配分としての年末手当回答はあまりに低く、私たちは11月16日の時点において「妥結できない」との判断に至った。

同日、私たちは年末手当回答に「0.8ヶ月分」の追加支給を求める申第42号を経営側に提出した。JR労働者の総力で正当な成果配分としての満額回答をかち取るものである。

JR東日本は9月16日に「変革のスピードアップ」を発表し、経営体質を抜本的に強化するとともに、変革のスピードを上げていくとした。しかし、矢継ぎ早に提案・実施される施策は、必要な知識や設備・職場環境の不整備に伴い現場を疲弊させている。さらに、昨今の賃金や雇用のあり方にも関わる施策の実施はJR労働者の不安を増大させている。

スピード感のある変革と施策実施の先にあるものはJR労働者の幸福でなくてはならない。私たちは労働組合として施策のチェック機能を果たし「団体交渉」を通じて「安全と働きがい」が実感できる施策を実現していく。

社会が急速に変わりつつある中、労働組合の存在意義が問われている。今こそ私たちはwith コロナの時代における生活の安心と安定に向けた道標を内外に示していかなくてはならない。私たちは労働者目線で未開の道を切り開くために、すべてのJR労働者と連帯する。そしてすべてのJR労働者の力の結集をめざす。新たな時代のJR労働運動の実現に向けて、すべてのJR労働者とともに今、力強く一步を踏み出すものである。

以上、宣言する。

2020年11月19日
JR東日本労働組合
第9回定期大会